

備前市事務事業評価表

事務事業名	監査委員事務	コード	担当課係	監査事務局
		06-01-20-01	担当者	小橋由香利
事業実施期間	昭和46年～		電話	0869-64-1839
総合計画 事業（政策）体系	大項目	健全で自立したまちづくり		
	中項目	簡素で効率的な行政運営		
	小項目	その他事務管理		
	施策	監査		

事業について	
目的	予算及び法令等に基づき、適性、合理的かつ効率的な行政を目指す。
対象 (誰のために)	市の事務事業（市民のために）
内容	例月出納検査、定期監査、決算審査等の監査を実施し、公正で合理的かつ効率的な事務事業を確保する。

事業の結果	17年度		
実施項目	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
例月出納検査	12 回		
定期監査	31 件		
決算審査	19 会計		
財政援助団体監査	2 団体		
工事監査	2 件		

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	2,111	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	17,600	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	19,711	一般財源等	19,711	合計	0	一般財源等	0

必要人員	2.00	人		人
結果指標①	結果指標名	定期監査対象部局		
	結果指標量	31		
	単位	件		
	対前年比	0.00%		
結果指標②	事業費	3,771,000	円	円
	単位当たりコスト①	121,645	円	円
	結果指標名	財政援助団体		
	結果指標量	2		
	単位	団体		
	対前年比	0.00%		
	事業費	2,243,000	円	円
	単位当たりコスト②	1,121,500	円	円

事業の成果	17年度		
成果指標名	定期監査対象部局	式又は説明	1年間に実地検査できる課、局、及び保育園・学校など
成果指標量	31		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	91	到達目標年度	平成23年度

(平成17年度事業)

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	監査業務は法令で定められており、市の財務の執行、経営にかかる事業の管理、市の事務の執行について、公正に監査、公表することにより市民の福祉の増進につながるため、目的、対象、内容は妥当である。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
市の関与の妥当性	市の関与の妥当性	
	市民の関与の妥当性	
効率性の評価	コストの効率化	コスト面では事業費のほとんどが人件費であるため、検査件数、内容が増えれば効率性は上がる。毎年監査計画を作成し、監査・検査の手法、内容について確認、検討をしている。
	手段の最適化	
	職場の効率化	
有効性の評価	目的達成度	成果指標については、3年間で全部局を実地監査する計画をたて、平成20年度で一度見直しをする予定である。市民参画度については、監査業務について市民に知らせる。
	成果向上の可能性	
市民参画度	市民参画度	

総合評価	コメント	評価区分 <A~E> B
	目的・対象・内容については妥当である。効率性については単位当たりコストの削減を目指す方針であるが、内容についても充実させなければならない。有効性については、定期監査の内容充実と実地検査の計画策定を十分に検討する必要がある。	

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	32	結果指標量②	3
目標値	結果指標量	32	

改善事項	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	有効性	定期監査の実地検査の件数および内容の対象事項を充実させる。	平成20年度	事業費の単位あたりコストの削減
		ホームページ上での監査業務の内容を現状より充実させる。	平成19年度	市民への監査業務の周知

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。